看護かごしま

Nursing Kagoshima

http://k-kango.jp

2018.Summer Vol.172

鹿児島厚生連病院新築移転

◆平成 30 年度　鹿児島県看護協会通常総会報告…… 2
◆新役員紹介 …… 3
◆平成 30 年度　鹿児島県看護協会長表彰…… 3
◆平成 30 年度　新任・再任役員ごあいさつ …… 4
◆平成 30 年度　日本看護協会長表彰・日本看護協会総会報告…… 6
◆ほっとニュース …… 8
◆鹿児島厚生連病院リニューアル …… 10
◆鹿児島県専任教員養成講習会 …… 12
◆研修会の日程変更について
◆インターネット配信研修会の開催日時について
◆地区だより …… 13
◆ナースセンターだより …… 17
◆理事会報告 …… 20

写真提供、ご意見、ご感想、または企画に対するご要望などお待ちしています。

各号につき抽選で 3 名様にクオカード 500 円分差し上げます。

編集部

平成 30 年度鹿児島県看護協会会員数

保 健 師	422 名
助 産 師	376 名
看 護 師	10,017 名
准看護師	682 名
合　　計	11,497 名

平成 30 年 7 月 9 日現在

平成 30 年度　公益社団法人　鹿児島県看護協会通常総会報告

平成 30 年 5 月 26 日（土）に鹿児島県看護協会通常総会が、総会出席者 535 名　委任状提出者 9,376 名　総数 9,911 名により鹿児島県市町村自治会館にて開催に至りました。

総会に先立ち、出席者全員で物故会員への黙祷を行いご冥福をお祈りし、その後に田畑千穂子会長の挨拶から始まりました。挨拶の中で、会員数が平成 28 年度末から 150 名増し 11,889 名となったことや今年度の 4 つの重点目標（1．地域包括ケアシステムの推進　2．看護職の確保・定着と働きやすい環境づくりの推進　3．看護の質向上及び看護職の役割拡大　4．地域別活動の推進とネットワークの強化）について取り組み強化の意気込みを伝えて頂きました。

今年度新規の取り組み事業として、専任教員養成講習会の開催が行われていることの喜びや、平成 31 年度 11 月に日本看護学会 - 慢性期看護 - 学術集会が鹿児島で開催される展望など、進めている事業の紹介もされました。

来賓祝辞は鹿児島県くらし保健福祉部長の中山清美様と鹿児島県県医師会会長の池田琢哉会長（野村秀洋副会長代理）に賜り、鹿児島県看護連盟会長の徳永龍子様の来賓紹介・祝電披露が行われました。

その後に、鹿児島県看護協会長表彰者 30 名の方々の表彰式が執り行なわれました。今まで看護協会の事業に御尽力いただいたことに感謝し敬意を表しお祝いの舞台となり、表彰者を代表し、日高佳代子様から謝辞が述べられ前半の幕が閉じられました。

後半は 10 時 20 分から総会の審議に入りました。議題は、第 1 号議案「平成 29 年度事業報告」は、1．理事会報告　2．事業報告　3．職能委員会報告　4．常任委員会報告　5．特別委員会報告　6．推薦委員会報告　7．選挙管理委員会報告　8．訪問看護事業者実態調査委員会報告　9．地区活動報告　10．日本看護協会理事会報告　11．九州地区法人会員報告　等が口頭・書面による報告がありました。

第 2 号議案（第一号議案）「平成 29 年度収支決算報告及び監査報告」が行われ、特に質問もなく承認されました。第 3 号議案（第二号議案）「平成 30 年度改選役員及び推薦委員の選出」において、平成 30 年度の役員候補者 11 名が改選され承認されました。次に推薦委員候補者 7 名も承認されました。次に、第 4 号議案（第三号議案）「平成 30 年度日本看護協会代議員・予備代議員の選出」について提案され、承認されました。第5号議案は、「平成 30 年度事業計画の内容報告」について、原田専務理事から総会要綱の P67 ～ P74 迄を読みながら説明された。特に強調されたことは、1．看護教育及び学会学術振興に関する事業の中で、長年の希望だった専任教員養成講習会の開催が実現したこと、平成 31 年度に鹿児島県にて慢性期看護学術集会の開催のための準備、2. 看護職の労働環境の改善及び就業促進による人々の健康及び福祉の増進に関する事業の中で、平成 29 年度までで終了したワークライフバランスの推進も社会経済福祉委員会にて継続して行うこと、看護師の賃金モデル導入の推進のための研修会を進めること、看護職の卒後研修制度の推進では、プロジェクトチームによる研修実施、多施設合同研修は全地区で開催、潜在看護師等就業支援では、潜在助産師再就業支援セミナーの開催、3．看護に係る調査及び研究並びに看護業務及び看護制度改善への提言に関する事業では、看護師の継続教育の実態調査、訪問看護事業者実態調査結果からの県への事業提案、4．地域ケアサービスの実施及び促進等による県民の健康及び福祉の促進に関する事業では、医療事故調査制度支援団体等と協働研修会の開催、災害対応マニュアルの周知・見直し、5．日本看護協会との相互協力及び連携に関する事業では、看護政策推進のための組織強化事業（キャリナース登録の推進）などを説明され後、出席者賛成多数により承認されました。

最後に、第 6 号議案「平成 30 年度収支予算報告」について執行部から説明があり、承認されました。

平成 30 年度の選挙管理委員会 11 名の承認もされ予定の全ての審議を滞りなく終了致しました。

新旧役員の挨拶があり日本看護協会歌を出席者全員で合唱し閉会となりました。

平成 30 年度の事業は具体的で盛りだくさんですが、全てこれからの地域住民の健康を守るために看護の力を結集しなければならないと感じる鹿児島県通常総会でした。

平成 30 年 5 月 26 日
副会長　中重敬子

平成 30 年度　公益社団法人　鹿児島県看護協会役員名簿

役　職	氏　名	勤　務　先
会　長	田　畑　千穂子	公益社団法人鹿児島県看護協会
副　会　長	中　重　敬　子	公益財団法人慈愛会教育開発センター
副　会　長	下仮屋　道　子	公益社団法人鹿児島県看護協会
専　務　理　事	原　田　ケイ子	公益社団法人鹿児島県看護協会
常　任　理　事	内　司　啓　子	公益社団法人鹿児島県看護協会
保健師職能理事	西　原　洋　子	個人会員
助産師職能理事	園　田　良　子	鹿児島市立病院
看護師職能Ⅰ理事	小　玉　博　子	公益社団法人鹿児島共済会南風病院
看護師職能Ⅱ理事	宇治野　由美子	医療法人ｸｵﾗ介護老人保健施設ｸｵﾘｴ
准看護師理事	志　水　恵美子	金子病院

役　職	氏　名	勤　務　先
鹿児島地区理事	川　畑　美　賀	鹿児島大学病院
南薩地区理事	畑　中　勇　二	訪問看護ステーションさくら
川薩地区理事	谷　川　智　子	医療法人ｸｵﾗ ｸｵﾗﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院
出水地区理事	花　田　博　子	出水郡医師会広域医療センター
姶良伊佐地区理事	鮫　島　明　子	独立行政法人国立病院機構　南九州病院
大隅地区理事	加治木　ゆかり	医療法人秋津会徳田脳神経外科病院
大島地区理事	榊　愛　香	鹿児島県立大島病院
監　事	財　部　マチ子	鹿児島大学医学部保健学科
監　事	古　川　康　郎	外部からの監事（公認会計士・税理士）

平成 30 年度　公益社団法人　鹿児島県看護協会長表彰

氏　名	所　属
赤　坂　和　代	垂水市立医療センター垂水中央病院
秋　丸　美智代	公益財団法人慈愛会　今村総合病院
池　知　美千代	公益社団法人大島郡医師会病院
井　上　尚　美	鹿児島大学医学部保健学科
今　村　　恵	鹿児島県こども総合療育センター
上　原　真知子	独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センター
内　野　冨　子	医療法人恵明会　整形外科松元病院
押　川　春　美	国立療養所奄美和光園
黒　木　ひろ子	姶良市役所
篠　原　和　子	日置市役所
島　畑　吟　子	鹿児島県立姶良病院
水　流　佳世子	社会福祉法人恩賜財団　済生会川内病院
末　吉　正　子	社会福祉法人向陽会　やまびこ医療福祉センター
田　畑　聖　子	鹿児島市立病院
恒　吉　里　美	鹿児島大学病院

氏　名	所　属
長　井　砂都美	川内市医師会立市民病院
西　　政　幸	医療法人明正会今林整形外科病院
花　田　博　子	出水郡医師会広域医療センター
馬　場　春　美	曽於医師会立病院
東垂水　チヅ子	医療法人徳洲会　鹿児島徳洲会病院
東　　浩　子	鹿児島市立病院
日　髙　香代子	公益社団法人鹿児島共済会　南風病院
堀之内　貢　子	垂水市役所
松　崎　みほの	社会医療法人天陽会　中央病院
三　島　玉　喜	十島村立宝島へき地診療所
三　島　真　美	霧島市立医師会医療センター
谷　山　正　子	社会福祉法人恵仁会　鹿屋長寿園
山　下　むつみ	鹿児島医療生活協同組合総合病院　鹿児島生協病院
山　本　聖　子	鹿児島県民総合保健センター
吉　満　まき江	公益社団法人鹿児島共済会　南風病院

（所属は平成30年3月末現在）

平成 30 年度　鹿児島県看護協会新任・再任役員のごあいさつ

会　長
田　畑　千穂子

この度、会長として二期目を務めさせて頂くこととなりました。地域包括ケアシステムにおける看護提供体制の強化、医療と介護の連携、看護業務拡大、看護の質向上、働きやすい環境づくり等、公益社団法人としての責任を果たせるよう努めてまいります。また、平成 31 年度の第 50 回日本看護学会―慢性期看護―学術集会の開催に向け、研究活動の支援とともに、本会からの情報発信の機会となりますよう取り組んでまいります。皆様のご協力とご支援をどうぞよろしくお願い致します。

副会長
中　重　敬　子

この度、2 期目の大役を引き受けることになり、尚一層役割を果たせねばならないと思っております。鹿児島県看護協会は、4 つの重点目標をあげております。私が特に注目し推進しなければならないと思うことは、看護の質向上及び看護職の役割拡大です。項目にある長年の課題だった専任教員養成講習会の開催、クリニカルラダーを活用した看護実践能力強化、特定行為に係る研修制度の推進です。鹿児島県看護協会の目標達成する力は大きいと思われるように、看護協会長を補佐し、理事の方々の活動を支援させていただきながら役割を果したいと思います。よろしくお願い致します。

副会長
下仮屋　道　子

2 年間の副会長職の活動を通じて、本会が保健・医療・福祉分野で担っている役割がいかに重大であるかひしひしと実感しております。医療の場が病院完結型から地域完結型へシフトし、地域包括ケアシステムの構築が急速に進められる中、医療と生活の両方の視点を持つ看護職への期待は増々高まっています。看護師、助産師、保健師がそれぞれの役割を担い協働してこのニーズに応え、県民の健康に寄与するという使命を果たしていくには看護職が生き生きと働き続けられる環境整備が必要です。専門職としての教育・研修などの事業を通し一層の充実を図るよう努めてまいりますので引き続き皆様のご援助よろしくお願い致します。

専務理事
原　田　ケイ子

この度、専務理事として 3 期目を就任致しました。会長や副会長を補佐しながら会員の皆様、県民の皆様の健康な生活への実現に向けて、関係機関、関係者の方々との連携を図りながら事業に取り組んでまいります。そのためには本協会及び各地区の組織強化と重点事業である地域包括ケアにおける看護供給体制の構築、災害対応体制の整備等に精一杯取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

常任理事
内　司　啓　子

平成 30 年度も常任理事を引き受けさせて頂き、協会活動を通して看護職として皆さまと共に歩めることに感謝いたしております。

教育事業の方では、認定看護師制度の再構築や特定行為に係る研修制度の活用の推進、看護師基礎教育の 4 年制化を推進する動きがあります。これらを含め鹿児島県看護協会も動向を踏まえた研修企画や事業を計画しております。皆さまのニーズを反映した活動を目指して参りますので、今後もご意見をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

助産師職能理事
園　田　良　子

この度、二期目の助産師職能理事をお引き受けすることになりました。
子育て世代包括ケアシステムにおける看護機能の強化が進められる中、切れ目のない妊娠・出産・子育て支援に向けた地域との連携推進、助産実践能力の強化、災害発生時における周産期医療の体制整備に努めて参ります。また、30 年度より CLoCMiP® 認証新規申請が再開され、31 年度は更新申請時期となります。引き続き CLoCMiP® 認証の推進と活用に取り組んで参りたいと思います。皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

准看護師理事
志　水　恵美子

この度、准看護師理事をお引き受けする事になりました。
超高齢化社会を目前に、これからの医療、介護職は、連携協力が重要な時代になると思われます。会員一人一人が専門職として、十分力を発揮出来る様に、又、2025 年地域包括ケアシステムに向け、何が出来るのかを先輩方の支援を頂きながら進んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

鹿児島地区理事
川　畑　美　賀

この度、鹿児島地区地区長という大役をお引き受けすることになりました。約 5000 人の会員を有する地区であり、責任の重さを感じております。
平成 30 年度は、診療報酬・介護報酬同時改定等があり、看護職への期待は益々高まっています。地域の各施設や多職種との連携を推進し、会員一人一人が専門職としての力を発揮出来るように、地区理事として微力ながら頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。

南薩地区理事
畑　中　勇　二

この度、南薩地区地区長をお引き受けすることになりました。
看護そのものは変わらないといえども、時代と共に変化していく人、環境に適応していくことが望まれます。地域の中で看護職は役割変化を求められており、看護職自らが考え行動することが期待されていると感じています。我々は 10 年後 20 年後を見据えた今を行動する必要があると思います。今この瞬間のこの活動が大海の中の一滴となることを信じ邁進して参ります。

出水地区理事
花　田　博　子

この度、出水地区地区長という大役をお引き受けすることになりました。
出水地区は、出水・阿久根・長島の二市一町にわたる地域で、人口の減少と高齢化率、看護職員の確保困難など多くの課題を抱えています。
看護の資質向上をめざし、現場で活かせる研修を実施、地区組織の強化と拡大に向けて地区協会員の入会促進への活動、医療・介護・福祉のネットワーク作りに取り組んでいきたいと思います。ご指導とご支援よろしくお願い致します。

大隅地区理事
加治木　ゆかり

この度、大隅地区理事をお引き受けすることになりました。お引き受けするにあたり会議等に出席することによって、少しずつ実感が湧き、責任の重さを感じているところです。また、このような機会を頂いた事に感謝致します。
これまでは、自施設の事ばかりで、地域や社会からは目を背けていたことに改めて気づき反省しているところであります。大隅地区は範囲が広く、看護師や看護補助者不足、教育などの課題は各施設でも類似してしております。超高齢化社会、2025 年問題に向け、微力ながら地域のネットワーク強化、情報交換など理事として橋渡しができるよう取り組んで参ります。どうぞ、ご指導・ご協力をお願いいたします。

平成 30 年度　日本看護協会長表彰

平成 30 年度日本看護協会通常総会で日本看護協会長表彰を、鹿児島県より原田ケイ子氏、吉留厚子氏の 2 名が授与されました。お二人の看護業務に対する功績に敬意を表しますともに、心からお祝い申し上げます。本会事業の発展のため、引き続きご支援・ご協力賜りますようお願いいたします。

平成 30 年度　日本看護協会総会に参加して

保健師職能委員
前　野　律　江

平成 30 年度　全国保健師交流集会に参加して

6 月 13 日に全国保健師交流集会が、488 名の参加のもと開催されました。
平成 29 年度の活動内容として、「保健師のキャリア形成推進に関する取り組み」「地域包括ケアシステムの構築・推進に関する取り組み」「保健師のネットワーク及び組織強化に関する取り組み」について報告され、30 年度の活動方針として、「看護管理者及び行政保健師の機能強化と連携の推進」「包括的な母子支援のための看護機能強化」が重点事業として出されました。

特別講演では、“母”でなく“父”ではなくて“親”になる～それを支える保健活動～と題して、とよたまこころの診療所長の鷲山拓男氏より、子育ての責任を全て親たちに押しつける発想からは虐待予防は実現しない。親になるとは、親と子どもが地域社会の一員として支えられていくことであり、そのような地域社会づくりを保健師の地域保健活動が実践していくことであると話されました。

午後からのシンポジウムでは、3 名の方から、大人になった被虐待児の課題、貧困問題、保健師からは、全ての親子を支える地域活動が報告されました。いずれの報告も今後の活動に参考になるものでした。今回このような機会をいただき感謝いたします。

助産師職能委員
的　場　美　香

全国助産師交流集会に参加して

6 月 13 日パシフィック横浜で全国助産師交流集会に参加した。子どもへの虐待や妊産婦の自殺が多い現代社会において、助産師として妊娠期から支援の必要な妊産婦を把握し、切れ目のない支援が重要だと再認識した。それと共に地域連携強化の必要性を改めて感じた。そのためにも、ウィメンズヘルスケケア能力の強化、また、妊娠期からの母子の身体面だけでなく精神面の健康把握も重要である。妊娠によって身体的にも精神的な変化の大きい妊産婦とその家族に対して、自施設でできることを考え、多職種、また地域を巻き込み連携強化の必要性を感じた。
院内助産・助産師外来ガイドラインの見直しの経緯、自施設でどのように活用していくべきか、また、2020 年から CLoCMiP® の更新申請要件について理解できた。院内助産・助産師外来ガイドライン 2018 の特徴において、ハイリスク妊産婦の増加している現状を踏まえ、助産師が対象とする妊産婦をローリスクに限定せず、ハイリスク妊産婦も医師と共同しみていくことになったことを受け、助産師と医師との連携強化、ハイリスク妊産婦の管理方針を決めることが重要だと感じた。自施設では院内助産・助産師外来は実施していないが、アドバンス助産師が 4 名おり、自施設でできる活動を考え、アドバンス助産師として活動していきたい。シンポジウムでは、各県における取り組みを聞け、これからの参考になった。院内助産開設していないがそれに近づけるためにはまずは産科医師との関係作りが重要であり、当院で出産される妊産褥婦さんへ質のいい医療を提供できるように連携やコミュニケーションをとり 1 つのチームとなり医療提供していくことが大事だと感じた。

平成 30 年度　全国看護師交流集会Ⅰ（病院領域）に参加して

看護師職能Ⅰ理事
小　玉　博　子

総会翌日に横浜パシフィコにおいて全国看護師交流集会Ⅰが開催されました。H29 年度活動報告とH30 年度活動方針説明の後「保健師助産師看護師法から読み解く看護師の役割」として准看護師の業務範囲の明確化や資格･名称の正しい表記の説明がありました。特別講演は「患者の幸せの最大値を目指す専門職倫理とは」と題して、琉球大学医学部附属病院（臨床心理士）の金城隆展氏の講演がありました。「倫理とは患者が選択する事を支援すること」「悩み続ける態度が倫理的姿勢」「立ち止まる事の大事さ」などについて、私たちが日々の実践の中で断片的には理解しながらも、行動･実践に統合できない倫理的態度を、具体的な事象をあげて講演されました。沖縄で実際にゲリラ戦のあった山が見える部屋でせん妄症状がでるおジイについて、妻の「あの山でまだ戦争している」と言われた事を、関わった医療者が受けとめて、おジイに山の見えない部屋へ移動して頂いたら、せん妄症状が無くなったという事例は、会場の参加者も感動し、倫理を深く理解できる内容でした。午後には「看護が“看護”であるために～時代にあわせて変化する役割～」として、教育現場における多職種連携の素地を作る取組み、特定行為研修を受けた認定看護師の実践､10 対 1 病棟での多職種連携と退院支援による後輩看護師の「生活の視点」を育成する実践、金沢大学病院での「抑制ゼロ」への取組みが、各演者より報告されました。最後に認定看護師制度の再構築（特定行為研修との統合化等）についての今後の方向性についての情報提供がありました。2025 年問題や地域包括ケアシステムなど、病院看護の現場も例外なく時代の流れの影響を受けていますが、研修に企画されている内容から、だからこそ“看護”を意識しようと思える時間になりました。学んだ事を、職能委員会活動を通して、会員に還元していけるよう他の委員と一緒に頑張っていこうと思いました。

『平成３０年度　日本看護協会　職能別集会』に参加して
（介護・福祉関係施設・在宅等領域）

看護師職能Ⅱ理事
宇治野　由美子

６月１３日､全国看護師交流集会Ⅱが開催されました。職能Ⅱは､地域の状況にあわせた医療･看護提供体制整備のあり方について課題発見・意見集約を行っているところです。その中で、特定行為研修への参加についての課題、看取り期の救急搬送の現状・課題､ＩＣＴを活用した死亡診断､「老い」や「看取り」などの住民への周知･普及活動等多くの課題の共有が図られました。また「在宅・施設内看取り」を推進したい思いがあります。今年度の報酬改定においても「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」をもとに、統一した対応が明文化されたことで、より良い看取りの実現に向けた役割発揮がますます重要になることが再確認されました。

特別講演では、その役割をいかに発揮すべきか「人生の最終段階における医療に関する最近の動向と看護職に求められること」と題し、神戸大学医学部付属病院緩和支持治療科、木澤義之特命教授の講義を拝聴しました。地域包括ケアシステム構築では「本人・家族の選択と心構え」「住まいと住まい方」が根本にあります。「利用者・患者にとって最善の利益（人それぞれ違うという前提がある）にかなう選択は何か？」自己選択・自己決定を支援するためのプロセス・ガイドラインについて学び、単なる説明では無く理解が出来るよう支援することの重要性を再認識しました。

平成 30 年度　日本看護協会通常総会に参加して

出水地区代議員
花　田　博　子

12 日にパシフィコ横浜　国立大ホールにおいて、平成 30 年度日本看護協会通常総会が開催されました。全国から代議員 748 名を含む約 3,443 名の参加者があり、私は代議員として参加させて頂きました。

福井トシ子協会長による挨拶では、地域包括システムの構築が進められる中、医療と生活の両方の視点を持つ看護職への期待は､更に高まっていること。日本看護協会は昨年70周年を迎え、看護職の役割と看護協会としての決意を伝えるタグライン「生きるを、ともに、つくる」を策定。全ての看護職、共に保健・医療・福祉に関わる専門職、地域で暮らす人々、そして社会全体と広く共有し、看護職がこれまで以上に役割をはたしていくことにつなげたいとの話がありました。

平成 30 年度の重点政策・重点事業として、1．看護基礎教育制度の推進　2．地域包括ケアにおける看護提供体制の構築　3．看護職の働き方改革の推進　4．看護職の役割拡大の推進と人材育成　看護基礎教育では、カリキュラムの増加や臨地実習の時間確保など課題があり、基礎教育 4 年制化を推進することで、複雑多様化する患者さんに対応できる看護師の育成が重要であると感じました。

准看護師制度の課題については､「安全な看護提供をするための業務範囲に関する課題への対応」に対して、実際の現場では、名称や資格の違いがあっても同様の業務をこなしているのが現実であり、実践するためには相当な困難が予想される。今後の具体的方針を伺いたいと質問があり、奨学金制度による進学支援や業務のガイドライン活用など説明がありました。

働き方改革の推進について、働き方改革法案は看護師の労働時間や夜勤従事者の看護師確保困難等、法制化に向けて国を挙げて働き方を考えるのは看護職にとってチャンスであると回答があり、看護師の夜勤･交代勤務の負担軽減が出来、離職者の減少に繋がればと思います。

今回、日本看護協会通常総会に参加させて頂き、社会の変化、ニーズに対応するために、安全で質の高い看護を提供できるよう看護基礎教育の充実や、役割拡大に向けた人材育成の重要性等を改めて認識することが出来ました。
貴重な機会を与えて頂きありがとうございました。

ほっとニュース

1 平成 30 年度　看護の日記念式典

5 月 10 日（木）に鹿児島県民交流センターで看護の日記念式典を開催しました。

今年度も看護学生を中心に、看護職・一般県民の方など 373 名の参加がありました。ミニコンサートでは、アンサンブルグーグーによるクラリネット演奏が行われ、会場一丸となり合唱し楽しいひとときとなりました。

式典では、長年にわたり看護業務に従事されてこられた 10 名の方々に「看護業務功労者県知事表彰」が授与され、代表して上原充世さんが謝辞を述べられました。

また、受賞者の十島村立口之島へき地診療所の西田昭子さんが島民の生活に寄り添いながら看護を続けてこられた体験をユーモアたっぷり交えて楽しくお話していただきました。

講演では今村総合病院に勤務されている日本精神科看護協会精神科認定看護師の鶴田奈緒美さんが「認知症の人の看護」と題して、ご講演くださいました。受講された方々も、「改めて認知症を理解した。認知症はその人の一部でありすべてではないこと。一番つらい気持ちを抱えていらっしゃるのは患者自身であることから看護の基本である意思決定支援、寄り添う看護を忘れないことの大切さ、動画で銀のさらの CM で認知症の対応の不適切さと対応の好事例を通して、支える家族の心情なども考えたら涙が出た。」等自身のこととして理解が深まったとの反響が大きいでした。

平成 30 年度　看護業務功労者県知事表彰

赤池	栄子	准看護師
赤塚	裕子	准看護師
有木	さちえ	看護師
上原	充世	看護師
江口	悦子	看護師
木原	あい子	看護師
木山	淳子	看護師
中島	久美子	准看護師
中道	ますみ	保健師
西田	昭子	准看護師
前野	かつ子	看護師
山岡	久江	保健師

2 まちの保健室

“看護の心をみんなの心に”をテーマに「看護の日・看護週間」行事として「まちの保健室」を平成 30 年 5 月 19 日（土）にイオン鹿児島鴨池店で開催いたしました。まちの保健室は、地域の子どもから高齢者までを対象に、こころの健康・生活習慣病・介護など様々な問題を身近な看護職に気軽に相談できる場となっております。

当日は、53 人の実行委員会委員と協力員が、延べ人数 2026 名の市民の方々に触れ合うことができました。バルンアートコーナーでは、3 カ所の測定・相談コーナーを利用された方々と子ども達が風船で出来たお花や剣等絶えることなくもらっていかれました。ゆるキャラの“くすみん”は鹿児島中央看護学校看護学生 6 名の皆様の協力のもとＢＬＳ講習に、プチナースとなった子ども達との触れ合いに大活躍してくれました。

3 図書係よりお知らせ

下記叢書を購入いたしました。皆様のご利用をお待ちしております。また、図書室に購入希望図書の調査票を用意いたしておりますのでご利用ください。できるだけご希望に添えるよう努力して参りたいと思っております。日本看護協会出版会の図書検索もパソコンでできます。図書室利用等に関しましてもご意見をお寄せ下さい。お待ちしております。

	叢書名	著者名	出版社
1	医療におけるヒューマンエラー第2版	河野龍太郎	医学書院
2	WHO 患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	ＭＣメディカ出版
3	患者安全のためのノンテクニカルスキル超入門	相馬孝博	ＭＣメディカ出版
4	RC A根本原因分析法実践マニュアル	石川雅彦	医学書院
5	看護師長ハンドブック	古橋洋子	医学書院
6	新任師長のための看護マネジメント	大田加世	医学書院
7	看護チームリーダーハンドブック第2版	杉野元子	医学書院
8	看護管理に活かすコンピテンシー	東京大学病院看護部	メデイカルフレンド社
9	組織で生きるすべての管理者職に	勝原裕美子	医学書院
10	ケースで学ぶ看護の質を高めるデータ活用術	叶谷由佳	ＭＣメディカ出版
11	看護における研究第2版	南裕子	日本看護協会出版会
12	ナースの“困った”にこたえるこちら臨床倫理相談室患者さんが納得できる最善とは	稲葉一人･濱口恵子	南江堂
13	認知症の人の気持ちがよく分かる聞き方･話し方	鈴木みずえ	池田書店
14	いかにして患者の「気持ちいい」は生まれるか	島田多佳子	日本看護協会出版会
15	医療倫理学のABC	井部俊子	メデイカルフレンド社
16	ルーブリック評価実践ガイド	森田敏子･上田伊佐子	メデイカルフレンド社
17	ナースのための臨床推論	徳田安春	メデイカルフレンド社
18	文献レビューの基本	大木秀一	医歯薬出版株式会社
19	はじめての看護研究　アンケート調査編	及川慶浩	ＭＣメディカ出版
20	はじめての看護研究　計画書の書き方	及川慶浩	ＭＣメディカ出版
21	質的研究の進め方･まとめ方第2版	グレッグ美鈴　他	医歯薬出版株式会社
22	研究手法別のチェックシートで学ぶよく分かる看護研究論文のクリティーク	山川みやえ･牧本靖子	日本看護協会出版会
23	よくわかる看護研究の進め方･まとめ方第3版	大木秀一　他	医歯薬出版株式会社
24	APAに学ぶ看護系論文執筆のルール	前田樹海　他	医学書院

4 国際モダンホスピタルショウ 2018 ★らく de 賞：公益社団法人昭和会 今給黎総合病院（鹿児島県） 作品名：「吸引楽ラック」 が選ばれました！！

一般社団法人日本経営協会主催
国際モダンホスピタルショウ 2018 特別企画
「現場のひらめきをカタチに！
第 11 回みんなのアイデア de 賞」の募集があり、公益社団法人昭和会 今給黎総合病院の作品「吸引楽ラック」 が★らく de 賞に選ばれました。

鹿児島厚生連病院リニューアル

看護部長とちょりす

鹿児島市与次郎１丁目 13 番１号
電話番号 099-252-2228
鹿児島厚生連病院　看護部長
原田　昌子

１．鹿児島厚生連病院について

JA 鹿児島厚生連は、昭和 54 年に健康管理センターを設立し、JA 組合員・地域住民の疾病予防・早期発見・生活習慣病改善に取り組んでまいりました。昭和６０年に天保山記念病院を取得し、平成８年に鹿児島厚生連病院と名称を改め、「予防から治療にいたる一貫体制」が整いました。両施設は近隣にあるものの荒田川と天保山公園を挟み別々の敷地にあり、このためスタッフは敷地間の移動を余儀なく行い非効率的で安全管理上の課題も抱えておりました。平成３０年５月１日に新施設がオープンし、いよいよ鹿児島厚生連病院と健康管理センターが一体化されました。これまでの「予防から治療にいたる一貫体制」を充実させ、巡回健診や人間ドック等の健康管理活動や腎臓内科が加わり 17 診療科 184 床の急性期医療を提供する病院です。

２．新病院の特徴

桜島をはじめ市街地から錦江湾を眺望できる素晴らしい環境に立地しています。建物はその眺望が活かせるよう左右対称の V 字型形状となっています。全体構成は、利用者の利便性とプライバシー確保を考えており、病院と健康管理センターの動線分離にも配慮しています。全体的に明るく開放的であり、階層ごとにイラストやカラーリングでわかりやすいサインとなっています。2 階フロアに病院外来、および健康管理センターの共用の検査部門を配置し効率的な運用ができるようにしています。3 階フロアは健康管理センター専用であり、健診ゾーンが男女交錯しないように配置されているのが特徴です。病棟はスタッフステーションを中心とした病室配置であり、病室が見守りやすくなりスタッフの動線にも配慮しています。各階層にあるラウンジは雄大な桜島を圧感のパノラマで一望でき、いつも患者様が多く集い人気のスポットになっています。8 階の展望レストランは受診者やご家族の方もご利用頂けます。

新たな取り組みとして、外来に動線システムを導入致しました。4 階に化学療法室 16 床を設け、外来・入院の化学療法を集中的に行えるようになりました。また透析室６床を設けております。リハビリ室はこれまでより広いスペースが確保でき、室外にリハビリ庭園を設け、内外でのリハビリが可能となりました。院内 1 階には看護部の念願でありました院内保育園「わかばっこ」を設けることができ、子育て中のスタッフが安心して働くことができると思います。

病院上空から桜島を望む

3．新病院開設までの取り組み

病棟再編成による新たな看護師配置が大きな課題でした。看護師の入れ替えがあっても混乱することなく安全で統一した看護が行えるよう再度看護基準・手順の見直し、人事調整を行い、派遣研修等を取り入れました。病院内で各プロジェクトチームが立ち上がりましたが、「全員でよい病院を創ろう」という考えのもと看護部独自のプロジェクトチームを結成し、新病院での動線をもとにした運用の協議を重ねました。また各部署にこれまでなかったカンファレンスルームの配置や自動尿量測定器の導入などの新たな機器も設置され、看護要員の業務量削減にも配慮して頂きました。

ホスピタルモール

8階　展望レストラン

4．今後のビジョン

当院は「予防から治療に至る一貫体制を堅持し、地域住民の健康の維持・増進活動と良質で高度な医療の提供を通じて、地域社会の発展に貢献できる病院」を理念に掲げております。今後、健康管理センターにおいては、健診受診者拡大に向けた取り組みを行い、地域住民の皆様の健康予防活動を推進してまいります。また病院においては、一般病床は 94 床へと削減し、地域包括ケア病棟が 90 床と増床される予定です。また新病院の開設に伴い、入院サポートセンターの立ち上げを行いました。一般病床・地域包括ケア病棟の役割をチームで最大限に発揮し、患者様・ご家族のニーズに沿った医療・看護が提供できるよう一丸となって取り組んでまいります。どうぞ新病院の見学にお越し頂き、圧感のパノラマを体感してみてください。

4階　リハビリ庭園にて　看護師長たち

鹿児島県専任教員養成講習会の開講式が行われました

鹿児島県看護協会
鹿児島県専任教員養成講習会　教育担当　　有村　優子

４月１７日（火曜日）ベイサイド錦江（鹿児島市鴨池新町）で　鹿児島県専任教員養成講習会の開講式が行われました。25 名定員に対して本県の看護師養成所や臨床施設に勤務する方々が 29 名、宮崎、熊本両県から２名ずつの応募があり、合計 33 名の方が受講することになりました。

当日は主催者である鹿児島県くらし保健福祉部中山清美部長から受講生に向けて、看護師の活躍がますます期待される時代に看護師を養成する専任教員の役割は重要であり、本講習においてしっかりと学習していただきたいとの激励のお言葉をいただきました。

また、本県看護協会の田畑千穂子会長からは講習会開催に対する祝辞の後、看護協会としても今まさに将来の看護を担う看護師の育成、つまり基礎看護教育の変革に向けて取り組んでいるところであり、受講生の今後の活躍に期待しているとエールをおくっていただきました。

これを受けて受講生を代表して鹿児島看護専門学校の青野拓司さんが、「19 年ぶりの講習会に参加できたことに感謝し、受講生全員でしっかり学習して専任教員として頑張っていきます」と挨拶し、開講式は終わりました。

今後受講生は、教育に関する基礎知識や看護教育に関する専門的な知識・理論等に関して大学の講師による講義や e ラーニングで学び、看護教育の実際に関しては演習や実習を通して学んでいきます。総時間 34 単位(855 時間)12 月 26 日の最終日に向かって個々の学習計画に基づいて学習を始めました。全員が無事講習を終え、晴れて専任教員として地域の看護を担う看護師の育成に貢献できますよう、更なる関係機関の皆様のご支援をどうぞよろしくお願い致します。

研修会の日程変更について

講師の都合により、下記研修会の日程が変更になりました。
それに伴い、申込期間も変更になりましたので、お間違えないようお申し込みください。

研修会名	変更前	変更後	申込期間
第２回保健師研修会	10 月 5 日（金）	9 月 21 日（金）	8 月 1 日～8 月 15 日
産科管理者研修会	11 月 10 日（土）	10 月 6 日（土）	9 月 1 日～9 月 15 日
セカンドレベル公開講座	鮎沢純子先生		研修日の５日前までにお申し込みください。
	11 月 5 日（月）	11 月 8 日（木）	
	岡谷恵子先生		
	9 月 7 日（金） 9 月 8 日（土）	10 月 9 日（火） 10 月 10 日（水）	

インターネット配信研修会の開催日時について

平成 30 年度教育研修計画に記載しております下記研修会につきまして、開催時間の記載漏れがございましたので、謹んでお詫び申し上げますとともに、追加訂正させていただきます。

開催日	研修会名	開催時間
8 月 7 日（火）～8 月 8 日（水）	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	1 日目　9:30 ～ 16:30 2 日目　9:30 ～ 16:30
8 月 21 日（火）～8 月 22 日（水）	多死社会に求められる看取りの看護	1 日目　9:30 ～ 16:30 2 日目　9:30 ～ 16:30
9 月 27 日（木）～9 月 28 日（金）	災害支援ナースの基礎知識～災害看護の第一歩～	1 日目　9:30 ～ 16:30 2 日目　9:30 ～ 16:30

地区だより

鹿児島地区

鹿児島地区地区長
川畑　美賀

この度、鹿児島地区地区長という大役をお引き受けすることになりました。5月26日に行われた鹿児島県看護協会通常総会で改選役員として選出された際は、身が震える思いが致しました。しかし、その後の田畑鹿児島県看護協会長の力強いご挨拶と、今年度取り組む4つの重点事項や平成29年度の活発な各委員会活動報告を伺いながら、自身のできる事を精一杯務めていこうと思いました。どうぞ、宜しくお願いいたします。

さて、平成30年度の地区集会は、6月16日（土）に、会員の皆様多数出席のもと執り行われました。今年度の活動目標として、「1．少子高齢化多死社会に対応する地域包括ケアシステム実現のために必要な研修を企画し、看護師の知識・技術・意識の向上を図る　2．地域住民の健康保持・増進に貢献する　3．看護協会活動を広く地域にアピールし、入会を促進する」を掲げています。研修会や、まちの保健室などの様々な事業を通して、地域住民とのふれあい、看護職同士の連携を強化していきたいと考えています。是非、非会員の皆様にもお声をかけていただき、協会活動に積極的にご参加いただきますようお願い致します。

■平成 30 年度　役員

役員	氏名	所属
地区長	川畑　美賀	鹿児島大学病院
副地区長	宮﨑　美千代	南風病院
副地区長	吉松　昌代	パールランド病院
書記	中村　章子	今給黎総合病院
会計	上田平　美津代	大勝病院
屋久島ブロック長	林　しおり	屋久島保健所
種子島ブロック長	矢野　順子	種子島医療センター
種子島会計	堀之口　恵梨華	西之表保健所
教育委員長	有島　みつる	相良病院
地域ケアサービス委員長	成　美智代	中央病院
出版規約委員長	木場　夏子	鮫島病院

医療安全情報ネットワーク委員	
氏名	所属
図師　裕美	鹿児島市医師会病院
児玉　和代	鹿児島市立病院
秋丸　美智代	今村総合病院

推薦委員	
氏名	所属
蒲生　ふき子	岩尾病院
今城　生恵	産科婦人科　のぼり病院
永手　ちとせ	鮫島病院

教育委員	
氏名	所属
恒吉　里美	鹿児島大学病院
西園　里美	鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校
山元　恵子	いづろ今村病院
小杉　純子（協）	伊集院病院
寶來　美貴（協）	産科・婦人科のぼり病院

地域ケアサービス委員	
氏名	所属
中野　洋子	成人病院
東　直子	鹿児島医療技術専門学校
松山　朝美	日高病院
榎本　富美江	鹿児島市立病院
中崎　千佐代	高田病院
中園　風音	上山病院
穂満　奈見（協）	高田病院
宮之原ちどり（協）	三宅病院
中嶋　千文（協）	米盛病院

出版規約委員	
氏名	所属
池田　貴美子	タラ看護専門学校
濱島　久美子	玉水会病院
後藤　隆彦	鹿児島医療センター

南薩地区

南薩地区地区長
畑中　勇二

この度、南薩地区地区長をお引き受けすることになりました。南薩地区では人口減少、少子高齢化が進んでおり、地域の状況に合わせた医療・看護提供体制整備が必要となっています。看護職が活躍する場が多様化し、看護を担う私たちに多く課題を示しています。このような状況から、私たちは看護の専門家としてだけではなく、組織のマネジメントを実践することも重要となっています。看護職の役割の多様化に伴い、看護管理者の役割も多様化・多重化しており、看護管理者の育成の重要性を認識できます。そこで、地区組織の充実と看護管理者を中心とした各施設間のネットワーク作りを活動目標のひとつとしています。これらの活動を通して、地域に必要とされる看護の提供ができるよう会員の皆様と共に地区活動に取り組んでいきたいと思います。皆様のご協力とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

■平成 30 年度　役員

役員	氏名	所属
地区長	畑中　勇二	訪問看護ステーションさくら
第1副地区長	國生　道代	国立病院機構指宿医療センター
第2副地区長	榴木　智恵美	県立薩南病院
書記	服部　郁代	医療法人あさひ会　金子病院
会計	福満　順子	医療法人あさひ会　金子病院
評議員	松永　真理亜	国立病院機構指宿医療センター
評議員	寺園　真由美	県立薩南病院
評議員兼教育委員長	吉内　朝子	医療法人杏林会　丸田病院
評議員兼地域ケアサービス委員長	冨永　沙彩	伊集院保健所
評議員兼医療安全ネットワーク委員長	古川　園恵	国立病院機構指宿医療センター

教育委員	
氏名	所属
吉内　朝子	医療法人杏林会　丸田病院
黒下　育美	ゆのもと記念病院
福留　マサ子	さつま訪問看護ステーション
前野　亜優美	県立薩南病院
富松　さとみ	山川病院
松元　江利	枕崎市立病院
千代森　和江	指宿竹元病院

地域ケアサービス委員	
氏名	所属
冨永　沙彩	伊集院保健所
徳留　恵理佳	指宿保健所
濱田　里香	国立病院機構指宿医療センター
新澤　雅代	小原病院
田畑　留美	花牟禮病院
福永　多恵子	南さつま市役所

医療安全ネットワーク委員	
古川　園恵	国立病院機構指宿医療センター
中村　昭子	県立薩南病院

川薩地区

川薩地区地区長　谷川　智子

地区長の任を受け一年が経過しました。皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。
さて、2025年問題に向け、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築が求められ、川薩地区も活発な検討が行われております。

当地区の高齢化率（2018年10月現在）は、薩摩川内市30.2%（35/43位）、さつま町38.7%（10/43位）と2025年問題の高齢化率30.3%にすでに達しており、現実問題としてより具体的な対策を推し進めていく必要があります。また、平成30年度は診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬のトリプル改定の年となり、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで尊厳を持ちながら自立して生活を行えるように、医療・介護の連携強化、生活の質の改善を目指した様々な要件や加算が組み込まれました。

昨年度、当地区では多職種・行政と協働しながら多職種連携事業を2回開催し、医療・生活の両方の視点で早期から在宅に向けて連携・協働することの重要性や連携には他職種の相互理解がキーポイントになること等、多職種間において共通認識を持ちました。今年度も引き続き、より具体的な医療・介護の連携に向けて前進したいと思います。また、わたくしたち看護職が果たす役割の重要性を実感する一方で、地域全体の看護職確保という課題はさらに深刻になることが予測されます。これに加え様々な組織の課題を、かたらん会（看護管理職のネットワークづくりと管理の学びを深める場）で共に考えて参ります。

今年度も地区会員の皆様のニーズに応えていけますよう、役員一丸となって取り組んでいく所存です。どうぞご協力をお願いいたします。

■平成 30 年度　役員

役員	氏名	所属
地区長	谷川　智子	クオラリハビリテーション病院
副地区長	寺脇　佐代子	済生会川内病院
副地区長	城ノ下　実千代	川内市医師会訪問看護ステーション
書記	木藤　恵	クオラリハビリテーション病院
会計	久留須　加寿美	川内市医師会立市民病院
評議員	久保田　祥子	薩摩郡医師会病院
評議員	今別府　るみ子	市比野記念病院
評議員　教育委員長	山田　七生美	クオラリハビリテーション病院
評議員　地域ケアサービス委員長	小園　洋子	薩摩郡医師会病院
評議員医療安全ネットワーク委員長	脇中　みどり	済生会川内病院

教育委員	
氏名	所属
奥平　綾美	鹿児島純心女子大学
福山　由可	川内看護専門学校
佐多　博美	済生会川内病院
松下　浩一	薩摩郡医師会病院
小牧　加代子	川内市医師会立市民病院

地域ケアサービス委員	
氏名	所属
比良　美智子	市比野記念病院
上坊　奈生	北薩地域振興局　保健福祉環境部（川薩保健所）
上床　知恵子	済生会川内病院
片平　広美	川内市医師会立市民病院
上田　ひろみ	森園病院

医療安全情報ネットワーク委員	
氏名	所属
田口　やよい	川内市医師会立市民病院

出水地区

出水地区地区長　花田　博子

この度、出水地区地区長という大役をお引き受けすることになりました。昨年は副地区長として看護協会の活動に参加し、看護協会の取り組みを学ばせて頂きました。

出水地区は、出水市・阿久根市・長島町の二市一町で構成される支部で、年々人口減少や高齢化と看護職員の人員確保に苦慮しているところです。在宅医療の裾野の拡大と多様なニーズに対応することを求められる中、医療・看護への期待は大きく、地域との連携や医療機関の外来部門と病棟との連携はとても重要です。

出水地区支部の30年度活動目標として、1. 地区看護職者の資質向上を図るため「医療・介護・福祉の現場で活かせる研修の実施」2. 地区組織の強化と拡大のために「地区事業を活用し地区協会員の入会促進への活動」3. 各施設間（医療・介護・福祉）のネットワーク強化をめざし「交流会の実施」などに取り組んでいきたいと思います。

職場の働き方改革が問われる中、業務の煩雑化に追われ、超過勤務の多い看護師の働きやすい環境の整備は喫緊の課題です。地区の実情に合わせた研修の開催を実施し、看護職の資質向上に繋げることが出来るよう努力したいと思います。地区会員の皆様のご指導とご支援をよろしくお願い致します。

■平成 30 年度　役員

役　　員	氏　名	所　　属
地　区　長	花　田　博　子	出水郡医師会広域医療センター
第１副地区長	溝　下　晴　美	出水総合医療センター
第２副地区長	岩　﨑　真　理	出水郡医師会広域医療センター附属阿久根看護学校
書　　記	多　賀　真　弓	出水郡医師会広域医療センター
会　　計	山　野　ゆかり	出水総合医療センター

教育委員	
氏　名	所　　属
中　村　冨士子	出水郡医師会広域医療センター
宗　像　勢津子	出水総合医療センター
若　松　都志子	出水中央高校
池　林　理　恵	出水郡医師会立第二病院
鶴　田　美　子	鹿児島県立野田女子高校
今　村　恵　子	出水郡医師会広域医療センター

地域ケアサービス委員	
氏　名	所　　属
倉　津　菜緒美	出水郡医師会広域医療センター
山　﨑　なるみ	出水総合医療センター
松　山　みつよ	出水総合医療センター野田診療所
中　納　朝　美	長島町役場
中　村　睦　美	出水総合医療センター
長　田　輝　美	出水総合医療センター高尾野診療所

医療安全ネットワーク委員	
氏　名	所　　属
田　中　真奈美	出水郡医師会広域医療センター
戸　崎　明　美	出水総合医療センター

平成 31 年度 全国代議員	
氏　名	所　　属
溝　下　晴　美	出水総合医療センター
牟禮　愛（予備）	出水郡医師会広域医療センター

姶良・伊佐地区

姶良・伊佐地区地区長　鮫島　明子

平成29年度から姶良伊佐地区理事に就任し2年目になりました。昨年は姶良伊佐地区の活動に対して会員の皆様方の多大なるご協力を頂きながら事業を進めていくことが出来ましたことに深く感謝致します。

平成30年度の診療報酬改定では地域ケアシステムの構築に主眼を置き、来たるべき将来の医療介護ニーズに備えるため、医療機能の分化や医療介護の連携強化・訪問看護の充実・看取り体制の整備を推進する改定となっています。地域医療構想が策定され、住み慣れた地域で最期まで安心安全な療養生活を送ることが出来るような医療介護が提供出来るように、今後更に整備していく必要があるとも言われています。

このような中で、医療看護に従事する看護師は幅広い知識や教養を持って欲しいと提言されています。地域包括ケアの時代において、看護職への期待と役割は大きくなり「看護の力」で地域社会を変えていく事も可能となってきます。その為には看護の専門性を磨くこととは勿論ですが、専門職業人として仕事が出来る人（女性）・・それだけでは寂しいと思います。相手に共感できる多様な引き出しを持った、豊かな魅力ある人間性が求められます。

姶良伊佐地区では、教育研修や地域ケアサービス活動を通して、人として相手の尊厳を守り、思いやる心を養っていけるような活動が出来たらと考えております。地域住民から選ばれる病院を目指し、会員の皆様方と共に、楽しく活き活きと活動していきたいと思っておりますので、ご理解とご協力のほど宜しくお願い致します。

■平成 30 年度　役員

役　　員	氏　名	所　　属
地　区　長	鮫　島　明　子	国立病院機構南九州病院
第１副地区長	敷　根　富貴子	整形外科松元病院
第２副地区長	平　野　里　美	霧島市立医師会医療センター
書　　記	西　郷　涼　子	国立病院機構南九州病院
会　　計	原　田　尚　子	国立病院機構南九州病院

教育委員	
氏　名	所　　属
的　場　浩　二	国立病院機構南九州病院
片野坂　幸　子	加治木記念病院
石　本　もも代	伊佐市医師会立准看護学校
宇　都　未　望	寺田病院
本　田　直　美	協愛病院
谷　口　順　子	国分生協病院

地域ケアサービス委員	
氏　名	所　　属
松　下　順　子	大口病院
西　　里　香	県立北薩病院
岡　山　美　穂	大井病院
前　畑　悦　子	青雲会病院
野　添　可奈子	霧島市役所
井　料　広　子	霧島杉安病院

医療安全ネットワーク委員	
氏　名	所　　属
川　内　サユリ	国立病院機構南九州病院
東　　鶴　江	霧島市立医師会医療センター

大隅地区

大隅地区地区長　加治木ゆかり

この度、大隅地区地区長をお引き受けすることになりました。このような大役は初めてで、会員の皆様、関係機関の方々にご支援・ご協力を頂きながら、地区事業が計画通り実施できますよう一生懸命取り組んで参りたいと思います。
平成30年度は、
1.地域包括ケアシステムにおける看護職の役割の強化
2.地域活動に積極的に参加し専門職能としての社会貢献を行う
3.地区組織間の連携・情報交換などにより、組織の充実と強化を図る
の3つを活動目標とし、様々な事業を計画しています。
その中でも、会員増に向けた施設訪問は近隣の施設等と協力しながら実施していきたいと考えています。また、平成29年度新規事業であった看護管理者の交流会は2年目を迎え、今年度は研修を計画しております。大隅地区全体の看護管理者同志が日頃の問題について語れたり解決したり、施設間の情報交換をしたり、大隅地区の看護管理者教育によって、地区全体の看護の質向上につながるような研修にしたいと考えていますが、詳細は看護管理者の交流会で検討し決定していきたいと思います。
今後も、地域の方々と連携を密にとりながら、大隅地区全体を盛り上げ、この地区で働きたいと思える会員が増えることを願います。地区会員の皆様の、ご指導とご支援を今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

■平成 30 年度　役員

役　　員	氏　名	所　　属
地　区　長	加治木　ゆかり	徳田脳神経外科病院
第１副地区長	神　園　瑞　代	垂水市医療センター垂水中央病院
第２副地区長	伊比禮　まり子	肝属郡医師会立病院
書　　記	平　嶺　秀　一	徳田脳神経外科病院
会　　計	内　村　昌　子	徳田脳神経外科病院

教育委員	
氏　名	所　　属
木　場　　大	徳田脳神経外科病院
前　田　真由佳	垂水市役所
辻　　みゆき	曽於医師会立病院
谷　山　正　子	鹿屋長寿園
近　間　眞由美	春陽会中央病院
大　田　千　穂	大隅鹿屋病院
岡　元　智　子	国立療養所星塚敬愛園
隈　元　美智子	恒心会おぐら病院

地域ケアサービス委員	
氏　名	所　　属
柿　元　淳　子	垂水中央病院
川　内　裕　子	肝属郡医師会立病院
小　脇　沙　織	志布志保健所
池　田　里　香	池田病院
川　元　佐　織	鹿屋医療センター
神之園　かよ子	昭南病院
山　下　秀　和	大隅鹿屋病院
原　田　かおり	恒心会おぐら病院

医療安全ネットワーク	
氏　名	所　　属
寺　師　真理子	鹿屋医療センター
田　畑　美穂子	徳田脳神経外科病院

新人看護職員研修チーム	
氏　名	所　　属
濱　田　由　美	垂水市医療センター垂水中央病院
近　間　眞由美	春陽会中央病院

大島地区

大島地区地区長　榊　愛香

平成29年度から大島地区理事を務めさせて頂き、2年目になります。昨年度は会員の皆様のご協力をいただきまして、「新人看護職員卒後研修多施設合同研修」や施設訪問など新たな事業を実施できましたことに心より感謝申し上げます。
今年度は1. 地区組織の充実と強化を図るための加入活動の推進　2. 看護の質向上のための教育研修の充実　3. 地域包括ケアシステム構築に向けた看護職間の連携推進の3つを活動目標として事業を計画しています。その中で新たに、看護管理者の交流を含めた「看護管理者研修会」の開催や、多くの看護職のみなさまへ事業を知っていただけるよう加入活動の推進に取り組んで参ります。
大島地区でも医療機関や在宅医療、介護施設など、地域包括ケアシステム構築に向けてさまざまな場での連携が進められております。事業をとおして地域の看護職がつながり、地域で暮らす人々を支え合うために、皆さまのご指導、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

■平成 30 年度　役員

役　　員	氏　名	所　　属
地　区　長	榊　愛　香	県立大島病院
第１副地区長	徳　村　芳　子	奄美中央病院
第２副地区長	鵜　木　すえ子	名瀬保健所
書　　記	泉　弘　子	県立大島病院
会　　計	重　井　香　里	県立大島病院
医療安全情報ネットワーク	榊　愛　香	県立大島病院
大島郡区ブロック代表	榮　明　美	宮上病院

教育委員	
氏　名	所　　属
下　田　なおみ	奄美中央病院
榮　　梢	県立大島病院
野　村　理　恵	名瀬徳洲会病院
中　村　美千代	奄美病院
吉　田　真奈美	大島郡医師会病院
赤　崎　由紀子	奄美和光園

地域ケアサービス委員	
氏　名	所　　属
松　本　恵里香	県立大島病院
伊集院　珠　美	大島郡医師会病院
牧　原　悦　子	奄美和光園
藤　山　レ　イ	名瀬徳洲会病院
坂　口　裕　子	名瀬保健所
與　　志　保	奄美中央病院

医療安全情報ネットワーク委員	
氏　名	所　　属
榊　愛　香	県立大島病院
森　晃　代	大島郡医師会病院

ナースセンターだより Vol.125

求人施設へお知らせ

平成３０年１月の職業安定法の改正に伴い、ナースセンターからのご紹介で採用された就業者の、**採用６ヵ月後の就業状況調査**が**必要**になりました。

調 査 対 象 者：平成３０年４月以降に常勤（雇用期間の定めの無い雇用）で採用した就業者
調査開始時期：平成３０年１０月から

調査方法：★e ナースセンターシステムからのご登録が可能です。
★ナースセンターから電話等で確認をさせていただきます。

御協力をお願い致します。

「看護職のWLB(ワーク・ライフ・バランス)推進カンゴサウルス賞」受賞施設を訪問しました

カンゴサウルス賞とは「看護職のＷＬＢ推進ワークショップ事業」に参加し、３年間の取り組みを続けた医療施設の努力と成果を顕彰するものです。今年は、４施設が受賞されました。

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター

職場環境を客観的に評価し『仕事と生活とを調和させ、専門職としてのキャリアの継続・看護の質向上を図る』ことを目的としたWLB推進事業に参加させていただきました。インデックス調査から導き出された看護師の生の声を聞くことから始め、委員会を立ち上げ、広報活動による職員の意識改革・時間外労働の取り組み・業務改善など幅広く活動を行いました。「継続は力なり」です。今後も職員一丸となり、頑張って取り組んでいきたいと思います。　（いちき串木野市医師会立脳神経外科センター　副看護部長　山口さゆり）

寺　田　病　院

WLB推進事業にて「職員の和を大切に健康でやりがいを持ち働き続けたいと思えるような職場作り」をビジョンとし、活動した事は、変化へと繋がり現在も継続中です。今後も更なる変化を目指しWLBに取り組んでいきます。　（寺田病院　看護部長　宇都未望）

谷　山　病　院

日本看護協会のワーク・ライフ・バランス推進事業に参加して、病院全体で「働き方・休み方改革」に3年間取り組んできました。推進事業は終了しましたが、今後は「働き方改革委員会」として継続し、働きやすい職場環境を目指してまいります。
（谷山病院　看護部長　北原美代子）

済 生 会 川 内 病 院

「すべての職員が生き生きとやりがいをもって働くことができる」をビジョンに掲げ、「WLB活動の周知」「連続休暇取得」「超過勤務削減」「男性の育児休暇取得」「多様な勤務形態」等に取り組み、組織活性化を目指しています。3年間で連続休暇取得率は14%→33.3%、超過勤務時間は14時間→10時間と成果がみられています。看護部主体で勧めていたワーク・ライフ・バランス活動を、本年度から院内組織である業務改善委員会に移行して継続的に活動を行っています。
（済生会川内病院　看護部長　寺脇佐代子）

再就業支援セミナー・技術支援セミナー

ナースセンターでは、ブランク等の理由で看護職での職場復帰に不安を感じている方々を支援するために、セミナーを開催しています。7月に第1回目の「再就業支援セミナー（3日間コース）」が終了しました。16名が受講し、講義と見学実習を通して新しい知識を得て看護を学び直し、自分自身の復職について思いを新たにしました。第2回目のセミナーは11月に開催します。詳細は、看護協会ホームページをご覧ください。

また、「技術支援セミナー（採血法）」を毎月実施しています。ご協力をいただいている鹿児島大学病院または看護研修会館で開催します。
受講希望の方はナースセンターまでお電話でお申し込みください。

鹿児島大学病院での研修の様子

地域ハローワーク就業相談員に聞いてみました

就業相談員：原田すず子

大隅地区の就業相談が「ハローワークかのや」で開始となり、その相談員をお引き受けして3年が過ぎました。

「ハローワークかのや」の相談日は毎月第3木曜日の8時45分～11時45分まで実施しており、今まで多くの方との出会いがありました。相談者の年齢は20代から60代と幅広く経験年数もそれぞれで、中には20年以上のブランクに期待と不安で相談にみえる方もありますが、じっくりお話をお伺いしているうちに、同じ看護職職業人として相通じるものもあり、少しずつ表情に和らぎを感じ取れたりします。複雑な思いで再就業に向け来所された方が、「相談してよかった」と、少しでも感じてもらえる対応に心がける姿勢が相談員に求められています。

相談に関しては守秘義務を遵守しながら、本人の了解を得られた方についてはナースセンターと連携を図り、就業に繋がる方もあり嬉しく思います。

相談以外には、地域の医療機関や看護学校の施設訪問もさせていただいていますが、各看護部長様方からは、育休代替や夜勤要員の補充不足・新卒看護師の確保困難な状況など、看護学校では新卒者の県外就職率の高い状況など、看護職の人材確保の現状をうかがい知ることができ、相談員としての今後の関わりの課題ではないかと思っています。

最後に私事になりますが、定年退職後は助産師として、地域の母子保健業務に携わる機会をいただき、妊産婦訪問や未熟児・新生児訪問を始めて今年で8年目になります。就業に年齢制限の無い看護職としての魅力を改めて再発見すると共に遣りがいと、今があることに感謝の日々です。

ハローワーク就業相談日【看護職の就業相談員が進路や就業に関する相談をお受けしています】

ハローワーク名	相　談　日	7月	8月	9月
指宿	第３火曜日（13：30～16：30）	17	21	18
加世田	第２水曜日（13：30～16：30）	11	8	12
川内	第３火曜日（13：30～16：30）	17	21	18
伊集院	第２月曜日（14：00～17：00）	9	13	10
出水	第３火曜日（13：30～16：30）	17	21	18
国分	第２月曜日（13：30～16：30）	9	13	10
かのや	第３木曜日（8：45～11：45）	19	16	20
大隅	第３木曜日（8：45～11：45）	19	16	20
名瀬	第３火曜日（14：00～17：00）	17	21	18
熊毛	６ヵ月に１回随時		29	
鹿児島	第３木曜日（13：30～15：30）	26	23	27

訪問看護研修 ～6月1日より『訪問看護研修（養成・入門）』がスタートしました～

養成研修28名（eラン修了生・eラン活用生含む），入門研修23名受講中。
★入門研修では57%が病院関係，訪問看護に興味・関心がある。従事したい。退院支援に従事しているため連携について知りたいなど。
★養成研修では55%が訪問看護に従事。訪問看護経験は平均が1.9年であるが，その45%は6ヵ月未満の従事者。もっと知識と技術を習得したい。実践できる力を養いたいなど動機は様々ですが，お互いに刺激を受けながら，ステップアップの時間になっているようです。

エコマップで情報共有できた。個人・家族・地域の視点でアセスメントがスムーズにできた。関係性が分かりやすかった。

養成研修の“ヒトコマ”です

【養成研修　～受講動機より～】
①看護学校で在宅看護論を担当している。学習を深めて看護の魅力を学生に伝えて生きたい　②将来的に訪問看護への就業を考えている　③eラーニングで学んだことをさらに深めて活かして生きたい　④訪問看護を始めて1ヶ月。もっと知りたい。　⑤29年度入門研修を受講した。次へのステップの課題を見つけるきっかけになった　⑥再就職のためにも知識を身につけたいなど。

【入門研修受講生のひとこと】
いちき串木野市医師会立脳神経外科センター
相星　美也子

平成30年2月から兼務で脳神経外科病棟と隣接する訪問看護ステーションに勤務（研修）している。社会資源活用や制度，他職種との連携について触れる機会となり，病棟での退院支援についても深く考えるようになりました。入門研修を通して入院から在宅への繋ぎが出来る様学んでいきたい。

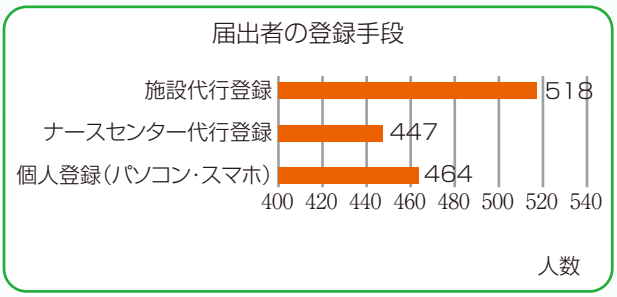
ロールプレイングで学びが深まった。緊張したが，自分では気づかない部分が見えた。

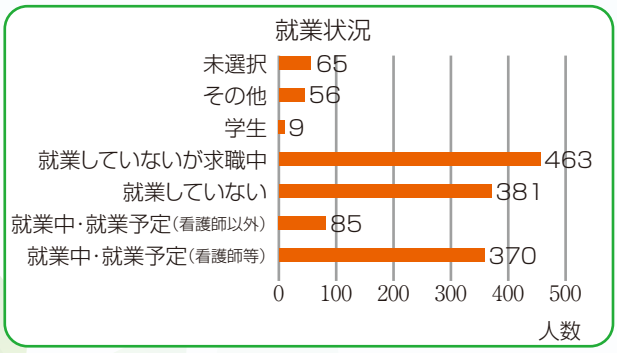
届出制度（とどけるん）【平成27年10月から離職時の届出が努力義務化されました】

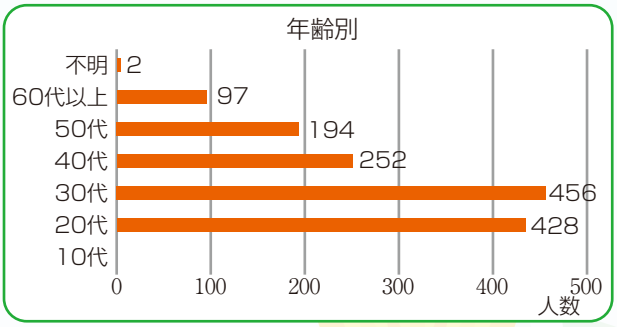
届出は“とどけるん”のサイトからご登録できます。

【届出状況】
平成27年10月～平成30年6月11日　現在1,429人

＊届出制度についてのお問い合わせは
鹿児島県ナースセンターへ！







【求人・求職登録状況】

	3月	4月	5月
求人数	694	713	703
求職者数	356	364	384
就業者数	55	42	50

鹿児島県ナースセンター
〔看護師等無料職業紹介所　４６-ム-０１０００２〕
★相談窓口★※予約不要
相談日：月～土　午前９：００～１２：００
午後１：００～　４：００
（土曜日は３：00まで）
〒890-0064 鹿児島市鴨池新町 21-5
TEL：099-256-8025
FAX：099-256-8079
mail：kagoshima@nurse-center.net
ホームページ　http://k-kango.jp/

理事会報告

◆平成 30 年度　第 1 回理事会
日時：平成 30 年 5 月 12（土）9:30 ～ 11:10
15 名出席

◆　協議事項
1　基本方針
・平成 30 年度常任委員会・特別委員会　諮問事項（案）
2　事業推進に関する事項
1）　有償ボランティアナースの育成研修会の開催について
2）　訪問看護供給体制推進事業について
・訪問看護実態調査を受けての平成 31 年度事業提案について
3）平成 30 年度看護政策推進のための組織強化事業について
4）　平成 30 年度中小規模病院、有床診療所を対象とした WLB 推進について
3　管理的事項
1）　管理事項
（1）　平成 29 年度年度決算報告及び監査報告について
（2）　平成 30 年度通常総会及びプログラム並びに役割分担について
（3）　3 職能合同集会について
（4）　地区集会出席予定について
（5）　認定看護管理者教育課程規則及び認定看護管理者教育運営委員会規程の改正について
4　会員支援関係

★　報告事項
1　事業推進に関する事項
・教育事業について
・専任教員養成講習会の開講について
・看護職員就業相談事業について
・県総合防災訓練について
・看護の日記念行事について
・慢性期看護学会準備委員会について
・その他
2　管理的事項
1）　管理事項
（1）　平成 30 年度収支予算報告書について
（2）　理事会・運営委員会の議事録について
2）　会員支援関係
（1）平成 30 年度会員加入状況
（2）日本看護協会「研修受講履歴」について
3　その他
1）　交替する役員（旧役員）へのお礼
①日時：平成 30 年 5 月 26 日（土）
理事会開始前
②場所：自治会館 401 号室
③内容：会長挨拶・記念品贈呈
2）　次回理事会
①日時：平成 30 年 5 月 26 日（土）
職能集会終了後
②場所：同上
③内容：理事の選定

◆第 2 回理事会
日時：平成 30 年 5 月 26 日（土）15:40 ～ 16:10
16 名出席

◆　協議事項
1）役員の選定について
2）会長代行及び専務理事代行の優先順位について
1　その他
1）提出書類について
・住民票・履歴書等の提出について
2）年間計画について
3）　次回理事会
・日時：平成 30 年 7 月 14 日（土）
午後 1 時 30 分～
・場所：1 階会議室
4）　地区長情報交換会
・日時：平成 30 年 7 月 14 日（土）
午前 10 時～
・場所：2 階研修室

※毎回、日本看護協会理事会報告、職能委員会報告、地区報告、地区長情報交換会報告を口頭で、委員会報告他団体会議報告、県外出張報告を書面で行っています。

編集後記

平成 30 年度、広報委員のメンバーが変わりました。今年度も、フレッシュな気持ちで、企画を考え情報発信していきたいと思います。

皆様のご協力よろしくお願いします。

広報委員一同

看護専門職として社会に貢献しよう　会員の増加と福祉の向上のため活動しよう

公益社団法人
鹿児島県看護協会
Kagoshima Nursing Association
鹿児島市鴨池新町21-5
TEL.099-256-8081　FAX.099-256-8079
URL　http://k-kango.jp
E-mail　kakankyo@orange.ocn.ne.jp